広報やすぎ 令和3年1月号

きらり光る地域

▲ユニフォームを着てポーズをとる谷川さん。

プロへのスタートライン

プロ野球育成ドラフト１位 谷川唯人（ゆいと）さん

小さい頃からの努力が実を結び、夢を叶えた人がいます。立正大学淞南高等学校3年の谷川唯人さん（大塚町）。令和2年10月に行われたプロ野球ドラフト会議の育成（※）1巡目に千葉ロッテマリーンズから指名を受けました。

谷川さんは小学生の時に兄の影響で野球を始めました。「負けず嫌いな性格なので、いつも兄を意識していて上手くなって追い抜いてやろうと思っていました」と当時の思いを口にします。高校に進学するときに決めた学校もお兄さんのいた同校。「この学校に行こうと思ったのは、ライバル視している兄がいたのと、監督の野球に対する熱意に共感したからです」と理由を明かします。

入学して実際に関わってからも「監督は思ったとおりの人で、指導は厳しいですが、自分たちを成長させようと思ってくれているのが分かるのでついて行けました」と指導者への思いを話します。

※育成選手は、2軍の試合に出場し、活躍して正式に支配下登録を受けると1軍の試合に出場できるようになる。

負けん気が強かったため、高校進学後も谷川さんの頭には、「自分が試合で活躍したい」という思いが常にありました。そんな時、監督から「その考えではチームは勝てない」と言われ自分を見つめ直しました。

「自分が務めるキャッチャーは、ピッチャーを支えないといけないポジション。また、日頃からチームメイトをまとめる役割を担っていたため、自分が全体を見て、勝つために何をすべきかを考えなければいけないと気づきました」と振り返ります。

考えを改めてからは、自然にプレースタイルは変わり、チームが勝てるようになっただけでなく、自分自身の技術向上にもつながりました。「今は、試合に臨むときは勝つことだけを考えます。さまざまな場面でどういう対応をするのがベストかを意識するようにしています」。

自分を「肩の強さが売りの動けるキャッチャー」と分析する谷川さん。「ドラフトで指名され、やっとスタートラインに立てました。強みを生かしながらこれからも技術を磨いて、一人前の選手になれるよう努力します」と未来に目を向けます。

▲試合中の様子。積極的に声を出してチーム全体の士気を上げます。

編集後記

▼プロチームのユニフォームに袖を通すことになった谷川さん。これまで、キャッチャーだけでなく、ピッチャーや外野手などもこなしていたそうです。「だいたいの球技は得意」と話しており、身体能力の高さがうかがえました。持ち前のスキルと向上心を大切にプロの世界でも活躍することを願っています（旬）

▼大きなイベントが延期や中止になってしまった令和2年。コロナ禍ではありますが、アルテピアを会場とするイベントが少しずつ復活してきました。入場の際には感染症防止のため検温、アルコール消毒、場内の換気などの対策がしっかりと取られています。今後もコロナに負けないイベントを期待しています（つ）

安来市の人口と世帯数　R2.11.30現在

人口合計／　37,797人
（男:18,156人　女:19,641人）
世帯数／14,375世帯

●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等につきましては、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK

秘書課編集／安来市役所　〒692-8686島根県安来市安来町878-2　電話:23-3010 / FAX:23-3161
ホームページhttps://www.city.yasugi.shimane.jp
メール:hisho@city.yasugi.shimane.jp